

事前に備えるべき目標		6 重大な二次災害を発生させないこと	
リスクシナリオ		<p>6-1 ため池、防災施設、天然ダム等の損壊・機能不全による二次災害の発生</p> <p style="text-align: right;">※人命に直接的・重大な影響を及ぼすリスクシナリオ</p>	
現在の取組・施策		脆弱性評価	
【ため池等の防災対策】			
<p><農業用ため池の防災対策> ※再掲 将来にわたる農業用ため池の機能発揮に向けて、個人管理及び土地改良区等が管理している農業用ため池について県と連携して長寿命化計画の策定が進むよう、技術的な支援を実施している。</p>		<p>農業用ため池について、土地改良区が管理するものは、土地改良区が長寿命化計画の策定を行い、個人管理のものについては、市が連携をとり策定する必要がある。</p>	
<p><ため池ハザードマップの作成> 下流に人家や公共施設等があり、規模の大きいため池について、災害等により決壊した場合の人命の安全を確保するため、ハザードマップの整備を進めている。</p>		<p>下流に人家や公共施設等があり、ため池が決壊した場合、人命に関わるため池があることから、作成したハザードマップについて、公表及び每户配布する等により周知する必要がある。</p>	
【防災施設の機能維持】			
<p><農山村地域における防災対策> ※再掲 農山村地域における土砂崩れ・土石流・地すべりから地域住民の人命や財産、農地等を守るため治山施設や地すべり防止施設等を県と連携しながら整備している。 ダムや水田などの雨水の貯留機能を発揮させ、洪水を防止するため、農業水利施設や農地の整備を推進している。</p>		<p>治山施設や地すべり防止施設等については、定期的に点検診断を実施し、長寿命化計画の策定や対策を進めるとともに、引き続き必要箇所の整備など、県と連携し、事業を推進する必要がある。 洪水防止や土砂崩壊防止機能など農業・農村の有する多面的機能を維持・発揮するため、地域や施設の状況を踏まえ、農地や農業水利施設等の生産基盤整備を着実に推進する必要がある。</p>	

事前に備えるべき目標 6 重大な二次被害を発生させないこと
 リスクシナリオ 6-1 ため池、防災施設、天然ダム等の損壊・機能不全による二次災害の発生

リスクシナリオを回避するための対応方策の概要			
ため池、防災施設、天然ダム等の損壊・機能不全による二次災害の発生を防ぐため、ダム施設、防災施設等の老朽化対策等を推進するとともに、ため池ハザードマップの作成により危険地区の周知や防災意識の醸成を図る。			
重点	対応方策 (今後必要となる取組・施策)	取組主体	重要業績評価指標 (参考値)
	農業用ため池については、計画的に点検・診断を実施の上、長寿命化計画を策定し、県と連携しながら老朽化・耐震化対策を実施する。	市 事業者等	長寿命化計画策定件数 1箇所【R3.1完了予定】
	ため池が決壊した場合の下流域の安全を確保するため、該当するため池のハザードマップを作成し毎戸配布する等により周知する。	市	
	<p>荒廃地等(荒廃するおそれのある場所、遊休農地等を含む)の早期復旧のため、治山施設等を整備すると共に、現在の施設の状況を踏まえ、必要に応じて老朽化対策を実施する。</p> <p>ダムや水田などの雨水の貯留機能を発揮できるよう、県と連携しながら農業用ダムの維持管理を適切に実施するとともに、必要に応じて水田の区画整理など、農業農村整備事業を実施する。</p>	市 県	